令和４年度　第１回　川口市社会福祉審議会児童福祉専門分科会　議事録

開催日時　：　令和４年６月１日（水）
午後２時から午後４時
開催場所　：　川口市役所第一本庁舎
６階　６０１大会議室

■出席委員
加藤分科会長、剣持委員、飯塚委員、岡田委員、菊池委員、笹川委員、竹田委員、辻委員、長沢委員、根本委員、水越委員、宮崎委員

■欠席委員
岩井委員、佐藤委員、山南委員

■事務局出席者
阿部子ども部長
子ども総務課：秋葉次長、松下課長補佐、岩田係長、仲田主任、田頭主事、鈴木主事補
子育て支援課：蛯名課長、後藤係長
子育て相談課：横野次長、今井係長
保育運営課：内田次長、齊藤課長補佐
保育幼稚園課：長澤次長、木内係長
青少年対策室：大澤室長、久保田室長補佐
地域保健センター：作田センター長、中森センター長補佐
生涯学習課：太田次長
学務課：新保主幹、石田係長

■傍聴者：０名

■配付資料
次第
施設認可部会　部会員名簿
（仮称）子ども条例検討部会　部会員名簿、設置要綱
児童福祉専門分科会　現時点での開催スケジュール
資料１　第２期川口市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について
資料２　施設認可部会の開催状況について
資料３、資料３【参考】　（仮称）子ども条例の検討状況について
資料４　第２期川口市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて

（新任委員のみ）
第２期川口市子ども・子育て支援事業計画　冊子
（仮称）川口市子ども条例関係資料

１　開会

２　子ども部長あいさつ

３　児童福祉専門分科会長あいさつ

４　各委員・事務局員あいさつ

５　副分科会長の指名

分科会長により剣持委員が副分科会長に指名された。

６　議事

議題（１）第２期川口市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

〇事務局
　資料１について説明。

〇委員
　資料 1-3「(13) 多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業」のうち、未就学児を対象とした多様な集団活動事業の利用支援事業とは、どのようなものか。

〇事務局
　当該利用支援事業は、令和 3 年度から追加されたものである。3 歳から 5 歳までの、保育無償化の給付を受けておらず、インターナショナルスクールの幼稚部など各種学校の幼稚園相当施設や、認可外の幼稚園に通う子どもを対象として、月額 2 万円を限度として施設の利用料を支援している。

〇委員
　令和 3 年度の進捗状況を受けて、令和 4 年度の量の見込みは、新型コロナの影響が少なくなってくるということを見越して、計画どおりに進めていくということで計上しているのか。

〇事務局
　新型コロナの影響が少なくなることで施設等の利用者数は増加することが見込まれるが、就学前児童数そのものが年々減っているため、計画策定時点での量の見込みと実際の進捗状況に差が出てきている状況である。そのため、計画の見直しは必要だと考えている。

〇委員
　主に需要が多い事業は（1）から（13）のうちどれか。進捗状況の数値としてプラスと出ている部分かマイナスと出ている部分か。例として「(1) 時間外保育事業」と「(3) 一時預かり事業（未就学児)」の進捗状況の解釈を説明していただきたい。

〇事務局
　(1) については、計画策定時に、就学前児童数等から量の見込みを算出したが、実際には、想定以上に児童数が減ってきている上に新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者数が見込みを下回った。
　(3) については、令和 2 年度の進捗状況がマイナスになっている理由は (1) と同様であると考える。マイナスが続いていく場合には、当初の見込みと実績が異なるということで見直しが必要だと考えるが、令和 3 年度は一転してプラスになっているため、見直しについては慎重に検討すべきであり、現在精査を進めている。結果を改めてご報告させていただく。

○委員
「(6) 子育て短期支援事業」とはどのようなものか説明していただきたい。また、令和3年度から令和6年度までの数字がほとんど同じになっているのはなぜか説明していただきたい。

○事務局
当該事業は、保護者の疾病等を理由に家庭において養育を受けることが困難になった子どもを一時的に児童養護施設等で保護するものである。令和 3 年度は疾病というよりもレスパイトを目的とした利用実績がある。量の見込みについては、我々としても広報等に努めているところではあるが令和 2 年度までは実績がなかったため、予算確保の都合上、増減することなく同じ数値で計上している。

○委員
「(9) 乳児家庭全戸訪問」について、訪問先での取り組みを説明していただきたい。

○事務局
主たる目的は子どもの安全確認である。訪問の結果、支援が必要だと判断される家庭には、家事支援や、助産師や保健師等による専門的な育児相談を実施している。訪問できなかった家庭については、利用している保育所や医療機関等において確認を行っている。

○委員
「(12) 実費徴収に係る補足給付を行う事業」の給付額を知りたい。また、低所得の家庭にはひとり親が多い傾向があるのか知りたい。

○事務局
当該事業における低所得の対象は、保育所等の入所者と幼稚園等の在籍者とで異なる。保育所等は、生活保護の受給世帯を対象とした、日用品・文房具や行事等への参加費等の実費徴収に係る支援であり、令和 3 年度は 17 人に対して合計 10 万 6,785 円の給付を行った。また、幼稚園等は、市民税の所得割が77,101 円以下であるか、小学校 3 年生以下の子どもだけを数えて第三子以降の場合を対象とした、副食材料費に対する助成であり、令和3年度は1,580 人に対して合計 1,285 万9,506 円の給付を行った。

○委員
資料 1-1 の、量の見込みについて質問したい。10 地区を 3 グループに分けているが、例えば、中央と横曽根は増えており芝は減っているなど、グループの中でも子どもの人数の増減にばらつきがある。グループごとの数だけを見ると、量の見込みと確保量の差が小さく見えるが、地域によっては定員の半分も埋まらない施設があり、運営がうまくいかず閉所しようかという声も聞こえる。そうするとそこに通っていた子どもたちは行き先を失ってしまう。それぞれの地域性に対する配慮をどのように考えているのか知りたい。

○事務局
川口市全体として児童数が減っており、地域ごとでも減っていたり変わらなかったりという傾向があることは、把握しているところである。そのため、量の見込みについても、ここで区分されている地域それぞれのこの数年間の推移をみて、見込みを立てていきたいと考えている。保育所の整備については、市の方針としては新規の保育所は開設しないとしているので、その中で量の見込みを考えていきたいと思っている。

○委員
保護者の仕事の関係等で、地区を越えて保育所等に通う子どももいるので、もう少し広く考えて地域をまたぐことも視野に入れて見込みを立てているのだと思う。

○委員

川口市には外国籍のかたが日本で一番多く、特に横曽根地区の西川口周辺は非常に多くなっている。そこで、外国籍の子どもの保育所等の利用者数を集計しているのか知りたい。

○事務局
おっしゃるとおり川口市に在住の外国籍の子どもが多いことから、保育所等の利用も多くなっていると感じているが、国籍を入所要件にしていないため統計はとっていない。

○委員
様々な事業があってよいと思うが、これらの事業を知らない、または利用方法が分からず悩んでいる家庭が多い。事業についてまとめた冊子があったと記憶しているが、現在も発行しているか知りたい。また、ホームページやQRコードを活用して、調べやすく分かりやすい広報を心掛けてもらえるとよいと思う。

○事務局
毎年、子育てガイドブックを作成しており、保育所の一覧や各種事業の説明や問い合わせ先を掲載している。

○委員
必ずしも「ニーズ＝利用者数」とは限らない。利用者が減っているということは、事業が知られていないことが原因かもしれないので、今後の課題として周知に努めなくてはいけないと思う。

議題（２）施設認可部会の開催状況について

○事務局
資料２について説明。

議題（３）（仮称）川口市子ども条例の検討状況について

○事務局
資料３について説明。

○委員
調査対象が絞られているが、ＧＩＧＡスクール端末を使えば瞬時に集計できると思う。アンケートの対象を絞った理由を知りたい。

○事務局
子ども全員からアンケートを取ることも考えたが、自由記載欄を設けていることもあり、対象を絞った。第２期川口市子ども・子育て支援事業計画を策定する前に行ったアンケートでは、小学５年生と中学２年生に対して、クラス数を絞って調査を行ったが、今回はクラス数を絞らずに調査を行うことにしたい。

○委員
今回の調査対象は、小学５年生、中学２年生、高校２年生と悩みが多い年頃だと思う。この調査は学校で行うのか、家庭で行うのかによって回答が変わると思う。回答場所によって仕分けをするのか。また、学校に来られていない子どもの方が問題を抱えていることが多いと思うが、そのような子どもたちからどのように意見をもらうのか。
アンケートの内容について、最初に将来の夢を聞いているが、この年頃ではっきりした将来の夢を持っていない子どもは多いと思う。夢を持っている子どもは良いが、持っていない子どもがこのアンケートに回答することによって「自分はダメな子だ」と思い悩んでしまうことがないかが心配である。これを聞くのであれば、質問を後ろの方に回して控えめに聞くことはできないか。
大人に対する意見を聞いているが、子ども同士の社会でもＳＮＳが発達しており、自分の意見を言い

にくい状況が生まれているのも事実だと思う。大人に対する意見を聞く形で良いのか。

○事務局
　アンケートの実施場所については、ＧＩＧＡスクール端末を使うので学校を想定している。学校に来ることができていない子どもの対応については、教育部局とも相談したい。将来の夢の聞き方や質問の順番については、これまでの（仮称）子ども条例検討部会でも意見を頂いているところであり、今後検討したい。この質問を設けようとしている趣旨は、現在、子どもが意欲的に過ごしているかどうかを聞くものである。夢の「ある」、「なし」という聞き方についても、どちらかをはっきりさせるような回答項目だけではなく、回答しやすい項目となるように工夫したい。大人に対する意見だけで良いのかという点についても、検討したい。

○委員
　アンケートの周知は市から保護者に対して行うのか。調査の実施については、保護者に周知し、理解をいただいた方が良いと思う。

○事務局
　保護者への周知は具体的には考えていなかった。他の委員はどのように考えるかお伺いしたい。

○委員
　アンケートを実施する際には、保護者に趣旨を伝える必要があると思う。アンケートを取って終わりでは意味がない。アンケートをどのように使っていくかを保護者や現場に伝えないと、アンケートを実際に行う側にとっては難しいと思う。
　アンケートの中身について、設問の順番やまとまりについての考え方を教えてもらいたい。私も学校の現場にいたが、一番困るのが、アンケートをやってくれと言われたにも関わらず、その使い道や背景が知らされていないことであった。

○事務局
　学校には、校長会を通じてアンケートの実施と趣旨を伝えてある。子どもたちには、今回のアンケートで使う端末を通じてアンケートの趣旨などを分かりやすく説明したいと考えている。保護者への対応については、本日のご意見を踏まえて検討したい。設問の順番については、これで決定しているものではないので、本日の意見を踏まえて再度検討したい。

○委員
　保護者の周知は検討するとのことだったが、その結果は後日報告するのか。このアンケートはとても重要だと思うので、親もきちんと納得して答えてもらった方が良いと思う。親の立場を考えると、保護者への周知はしてもらいたい。

○事務局
　アンケートの内容については、完成したら委員の皆様には報告したい。また、このアンケートは夏休み前の７月に実施予定なので、周知方法も含めて、委員の皆様には報告したい。

○委員
　では、本分科会でアンケートについて意見を聞くのはこの場限りということか。

○事務局
　そのとおりである。

○委員
　倫理的配慮を考えると、任意回答であること、回答を途中で止めることもできること、データの使用用途、個人が特定できないようになっていることはきちんと伝えなければならない。成果を生かすために

も、手順を踏んで、調査に協力していただく方が納得する形にしておかないと、後で批判されてアンケート結果を使えないということにもなりかねない。

○委員
　アンケートの中に「身近な大人」とあるが、これは親のことであるか。

○事務局
　家族や先生を想定している。

○委員
　保護者への周知について意見が出されているが、言い方は悪いかもしれないが、このアンケートに親への悪口や親に分かってもらいたいことを記載する子どももいると思うので、その観点からも検討した方が良いと思う。

○委員
　今回子ども条例を作る目的は、子どもを主体に考え、子どもの考えや困っていること、いじめの有無などを調べて、今後の市の施策に生かしていくためだと思う。これに大人が関与してしまうのはどうかと思う。今回調査の対象としている子どもは未成年なので、未成年が発言することに親が責任を持つということは理解できるが、大人の世界で生きていて困っている子どもを見つけて行政が手を差し伸べようということだと思うので、アンケートの実施方法や答え方については配慮が必要だと思う。しかし、親や学校の先生に気を遣うということをやり過ぎてしまうと、本当の意味で子どもが困っていることを吸い上げるということができないのではないかと思う。

○委員
　もっともな意見だと思うが、アンケートを取るという連絡は保護者にすべきだと思う。

○委員
　アンケートで子どもの意見を吸い上げることは大切だと思うが、大人が子どもの権利をきちんと考えていきましょうと今後伝えていくことを考えると、大人に対しても周知していくべきだと思う。子どもの権利を守るためにこのようなアンケートを実施するということを知ってもらう意味で、このアンケートの実施について保護者にも周知すべきだと思う。
　単身家庭の子どもだと、「周りの大人」、「父」、「母」という言葉を見ただけで嫌な気持ちになると思う。
　アンケートの中身自体は子どもの意見を吸い上げるものであったとしても、このアンケートの目的が、大人が子どもを守っていくためにやっていくというということをしっかり周知しないと、このアンケートが何の役にもたたないというのではもったいないし、子どもにも失礼になると思う。アンケートの文言も含め、今回出された意見を踏まえて検討を進めてもらいたい。

○委員
　私は、分科会長からご指名をいただき（仮称）子ども条例検討部会の委員となり、そこで部会長を務めている。これまで出された意見はどれも重要だと思っている。
　この条例案が出来上がるのは来年の２月頃を予定しており、令和５年６月の議会に提出する段取りになっている。このアンケート自体をこの条例の策定過程でどのように位置付けるかは非常に重要である。１つの条例を作るときに、期間がこれで良いかとは正直思っている。例えば、世田谷区で医療的ケア児について検討を進めた際、最初、医療的ケア児を抱える保護者がどのように困っているかをアンケートしたのが平成２７年であった。その結果を分析し、組織を作り上げたのが昨年６月であった。川口市の子どもが置かれている状況を調べ、分析しながら条例を作っていくことが必要だと思う。
　青少年の意識調査については内閣府がすでに行っているが、各国に比べて日本の子どもたちは自分を評価していない、夢がないという結果が出ている。今回のアンケートは、子どもたちが置かれている状況を改善するためにどのような条例を作るかを検討するための重要な取り組みだと思っている。資料３参考の「参考資料１」に、今回の条例を策定することになった背景が書かれている。第２期川口市子ども・

子育て支援事業計画との関係では、児童虐待や子どもの貧困も含め、子どもの実態を調べることが大事である。そして、矢印の下に書かれているとおり、誰一人取り残さず、すべての子どもが健やかに成長できるようにするため、保護者や学校、児童福祉に携わる人が何を大事にしていくかを示すものが子ども条例であると私は捉えている。７月に検討部会の会議が予定されており、皆さんの意見を反映させながら取り組んでいきたい。

○委員
　児童養護施設にいる児童は、現在、進学希望があれば進学できる状況になっている。進学率については、平成２５年が１３．９％、令和元年が２８．６％、令和２年が２５％である。施設の子どもの進学希望は１／３程度で、貸与型の奨学金も昔に比べて増えており、まだ不十分な面もあると思うが、場合によっては、地域の子どもの方が十分ではない部分があると思う。進学の費用や、ヤングケアラーであれば勉強する時間の確保の問題など、進学に関する内容もアンケートに入れて良いのではないか。
　１４歳未満の非行の子どもについては、警察が認知した場合は全て児童相談所に送られることになっているが、近年ではほとんどいない。児童相談所に一時保護所というものがあり、ひと昔前には必ず数人は非行の子どもがいたが、近年では０であることの方が多い。代わりに、精神的に不安定な子ども、発達に課題のある子ども、親との関係が良くない子どもなどが増えている印象がある。ゴールデンウイークには机を投げる、ガラスを割るなど大暴れして大変な子どもの対応をした事案があった。子どものメンタルヘルスという視点もあった方が良いと思う。

○委員
　自分の考えが大切にされているか、という質問については、低い結果になることが予想される。イタリアなどとは異なり、日本のような社会では自分の意見は控えて人に合わせることが良しとされているので、低い結果になると思うが、その結果が他の市より低いとみるのか、川口市が異常に低いとみるのか、解釈に悩むことになると思う。
　現時点で、不登校について触れられていないように思うが、川口市の子ども条例の中にも盛り込んでもらいたい。
　参考資料３－５に挙げられている他市の条例に「保護者の責任ある見守り」とあるが、ルールを守って外遊びをすることが苦手な子どももいる。こうした条文をもし川口市で入れるのであれば、書き方を工夫してもらいたい。

○委員
　このアンケートは、上から目線の作り方だと思う。例えば、子どもが「１，０００円持って２００円のものを買うとおつりはいくら？」と聞くと、大半は８００円と答えると思う。ただ、もしその子どもが１，０００円札１枚ではなく１００玉１０枚持っていたとしたら、おつりは０円になる。子どもの目線に立ったアンケートを作ってもらいたいと思う。

○委員
　アンケートで使う文言について、例えば「大切にされている」といった文言は、人によって取り方が違うと思う。定義があいまいな言葉は使わない方が良い。「大切にされている」という、人によって取り方が違う言葉を使って得た結果を分析して「大切にされている」、「大切にされていない」などと判断することは誤りだと思う。
　アンケートの最初になりたい職業や夢を持ってくることは無理があると思う。
　私の考えだと、はっきり伝えることが「できている、できていない」という聞き方ではなく、「はっきり伝えていますか」など、体験したことが答えになるような設問にすべきだと思う。また、最初に家族の属性を聞いた方が良い。最終的にはクロス集計をすることになると思うので、そのあたりをイメージしながらストーリーを立てて進めた方が良い。まず、答えやすい質問を最初に持ってきた方が良い。
　長期休みの居場所がないというのが問題だと思う。学校にいるときは学校にお任せすれば良いが、生活の場面で市が何をできるかを考えることになると思う。川口市の場合だと、ショッピングセンターが居場所になっていると、商品を買いたいと思い、友達からお金を盗ったり賭けをしたり、色々なことにつながってしまう可能性がある。川口市が子どもの居場所を把握するのであれば、長期休みや学校にいな

い時間帯にどこにいるかを調べれば、次に進めていけると思う。
　ある程度のストーリーを持っていないと、アンケートを取っても使えないということになるのが目に見えている。

○委員
　このアンケートの調査スケジュールは大丈夫か。

○事務局
　条例を来年６月に出したいと考えているので、アンケートは予定通り行いたい。

議題（４）第２期川口市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて

○事務局
　資料４について説明。

議題（５）その他

○事務局
　議事（５）その他について説明。

○委員
　それでは、本日の議題は全て終了する。

７　閉会